

スターフライヤーの上期決算概観

11月1日に発表されたスターフライヤー(SFJ)の2013年度上期決算における収支を概観した。(数値は、発表されている決算や輸送データをもとに、JAMRで加工したもの。)

1. 大幅収支悪化で赤字に転落;

- ① 事業規模は大きく拡大; 新たに配分された羽田枠で福岡線の便数を倍増したほか、関西線、北九州線の増便、国際線(北九州=釜山)の通期化で、総便数は約4割増加。
- ② 営業収益は+28%の160億円となったが、他方では規模拡大、燃油価格上昇、円安による機材費などの外貨費用増等のために営業費用は+44%の大幅増。
その結果赤字に転落して営業損失は▲14億円、当期純損失は▲13億円となった。
- ③ 下期に入っても営業損失は拡大し、通期では▲20億円となる見込み。

	H24	H25	前年比較		2013 通期予測
			差	率	
	百万円	百万円			百万円
営業収益	12,520	16,024	3,504	128	33,700
営業費用	12,151	17,460	5,309	144	
営業利益	369	-1,436	-1,805	-389	-2,040
(利益率)	3	-9			
営業外収支	-174	123	297		
経常利益	195	-1,313	-1,508		-1,800
当期純利益	171	-1,318	-1,489		-1,740
航空機数(9月末)	機	機	機	機	
1日の便数	42	58	16	138	

2. 収益性指標(推定);

- ① 1便当り収支; 1便当り収入は、(前期)163万円 ⇒(当期)150万円と約▲2万円減少。
 加えて費用が(前期)158万円 ⇒(当期)164万円と6万円増加。
 この結果、前期5万円の利益が、当期は▲13万円の赤字となったもの。
- ② ANAへの座席販売; コードシェア(北九州線、関西線)でANAに販売した座席は、全座席の約20%と推定される。
- ③ 自社分の輸送実績; 供給座席は+46%増えて126万席となった。
 旅客数も+42%増えて81万人となった。搭乗率は66 ⇒64%と低下した。
- ④ 旅客単価、座席コスト(JAMR推定); 平均旅客単価は約1,200円低下(▲7%)して15,800円程度になったものと推定される。また座席コストは約500円上昇して11,200円程度だったと推定される。
 この結果、B/Eは跳ね上がって71%程度になり、搭乗率64%を大きく上回るようになったと推定される。

		H24	H25	前年比較	
				差	率
1便当り収入	千円	1,628	1,505	-123	92
1便当り費用	千円	1,580	1,640	60	104
1便当り営業利益	千円	48	-135	-183	
座席数	千席	866	1,261	395	146
旅客数	千人	568	806	239	142
搭乗率	%	66	64	-2	
(以下概算推定)					
旅客単価	円	17,000	15,800	-1,200	93
座席コスト	円	10,700	11,200	500	105
B/E	%	63	71	8	
ANAへの座席販売割合	%	24	20	-4	

以上(Y.A)